

子どものいのちを守る防災教育の推進

菅原 透（白鷹町立荒砥小学校）

1 はじめに

台風や豪雨による河川氾濫、地震による土砂災害等が多発し、子ども達を取り巻く危機が多様化してきている。学校では、子ども達に予測できない事態が発生した際、必要な情報を的確につかみ、自ら判断し行動できる力を身につけさせることが求められている。

本研究は、子ども達が災害に立ち向かい、自ら動きを起こす防災教育を推進する校長の役割と指導性を追究した。

2 研究の概要

(1) 研究のねらい

子ども達が、災害に対して自ら判断し行動できる力を身につける防災教育を推進し、子どもと大人の危機対応力を高め、安心安全で信頼される学校を創る。

(2) 研究の方法

- ① アンケートによる各校課題の把握
- ② 課題解決に向けた各校の実践
- ③ 確かな力をつける防災教育の一般化

3 研究の内容

(1) 非常災害に備え、多様な学びを保障する

① 「いのちの日」

毎月はじめに、一人ひとりが、いのちと安全のめあてを立て、月末に振り返る機会を設けた。

② 「いのちと安全を考える週間」

かつて発生した大雨被害を受け、同時期に強調週間を設定し、避難訓練や安全・防災に関する指導を行った。

③ 各種避難訓練

ア 月1回、緊急地震速報を想定し、授業または休み時間中に簡単な訓練をした。

イ 各種訓練終了後、子どもに振り返りをさせ、キャリア・パスポートに綴った。

(2) 非常災害に備え、多様な体験を保障する

① 保護者への引き渡し

ア 子どもに危険を及ぼす恐れのある重大事態を想定し、引き渡し計画を策定した。

イ 引き渡しの詳細を保護者に周知した。

迎への家族等の氏名を報告いただいた。

ウ 引き渡しの実際

i 保護者が校舎内に入り、直接迎えに行った。担任等が確認して引き渡した。

ii 校地内を一方通行とし、ドライブスルー方式で昇降口にて引き渡した。

② 新型コロナウイルス予防

ア 文科省・県教委通知をもとに、校内生活マニュアルを作成し、共通実践した。

イ 自分達でできる感染予防策を子どもに考えさせ、実践させた。

③ 地区防災連携体制

校長が地区防災研修会に参加し、学校の実態を伝え、子どもを守る方策を検討した。

4 成果と課題

(1) 災害を想定して実体験させること、家庭・地域と連携した動きを作ることは、“いざ”と言う時に備えた対応力を育てる。

(2) 災害に対する学びを日常的かつ多角的に積み上げると、防災への意識が高まり、自ら判断し、自ら動くスキルも身につく。

(3) 従前の取組に加え、災害の多様化に対応できる防災教育を、意図的・計画的に実施する必要がある。

5 提言

(1) それぞれの地域に応じた防災教育を学校経営の柱に位置付け、“危機的状況に立ち向かい、自ら動ける子ども”を育てる。

(2) 学校・家庭・地域が連携し、自助・共助・公助を基にした“いのちを守る防災体制”を構築する。